絵馬修復 地域の宝に

細かな線 一本ずつ丁寧に筆

西区・芳野中3年生

東門寺菅原神社

絵馬の細かな部分を真剣に塗っていく芳野中の生徒ら＝熊本市西区

熊本市西区の芳野中の3年生11人が、東門寺菅原神社（河内町東門寺）に伝わる絵馬の修復作業に取り組んでいる。絵馬の劣化に苦慮していた自治会が同中に修復を依頼。美術の時間や放課後を利用して、崇城大芸術学部の中村賢次教授(59)＝日本画＝らの助言を受けながら、慎重に進めている。

同神社には、畳1枚ほどの絵馬が計5枚あり、江戸時代後期に作製されたとみられる。武者などが描かれ、雲の一部には金粉もあしらわれているという。

松本文昭自治会長(62)によると、絵馬は風雨による劣化で消えかけていた。専門業者による修復を検討したが、費用が数十万円かかるため、10年以上にわたって手が付けられない状態が続いていた。

美術が専門の平木美和校長が苦慮する地元から話を聞き、崇城大芸術学部に相談。市指定の文化財などでは無いため、生徒らを中心に修復することにした。

作業では、中村教授と、長女で同学部出身の妃菜さん(26)が助言し、絵の具の調合なども担う。生徒らは3月の卒業までに、5枚のうち2枚を修復する予定。現在は武具などの細かな線を、黒色で一本ずつ丁寧に塗っている。

高校では芸術系に進学予定の松村つむぎさんは「当初、自分たちが修復に関わっていいのかと驚いた。作業は緊張するけど、最後まで頑張りたい」。稲田あやねさんは「筆の使い方や力の入れ具合が難しいが、地域に貢献したい」と笑顔で話した。

絵馬の修復に取り組んでいる芳野中の生徒ら

作業を見守った松本会長は「絵馬がきれいに修復できれば神社も華やかになって、神事などに臨む気持ちもあらたまるはず。住民みんなが楽しみにしている」と目を細める。

県内の寺社には、氏子や檀家らが依頼して描かれた絵馬が数多く残っているが、消えかけているものも多いと指摘する中村教授。「願いが込められた地域の『文化財』をつないでいくことはとても大事だ。子どもたちが修復に関われば、大人になっても地域の宝として大事にしてくれると思う」と期待する。

（山口尚久）

2022年2月27日　熊本日日新聞　P.18